

# 三重県の地震活動（令和6年3月）

令和6年4月23日  
津地方気象台

## 【概況】

今期間、三重県内の震度観測点で震度1以上の地震は1個ありました。

- ① 岐阜県美濃中西部（23日08時31分、深さ14km、M4.6）により、岐阜県揖斐川町で震度4を観測したほか、東海・北陸・近畿地方・関東甲信地方にかけて震度3～1を観測しました。

※ 県内の詳しい震度は、2ページ以降に記載しています。

## 地震の震央分布図と断面図 (深さ0～500km、M0.5以上)

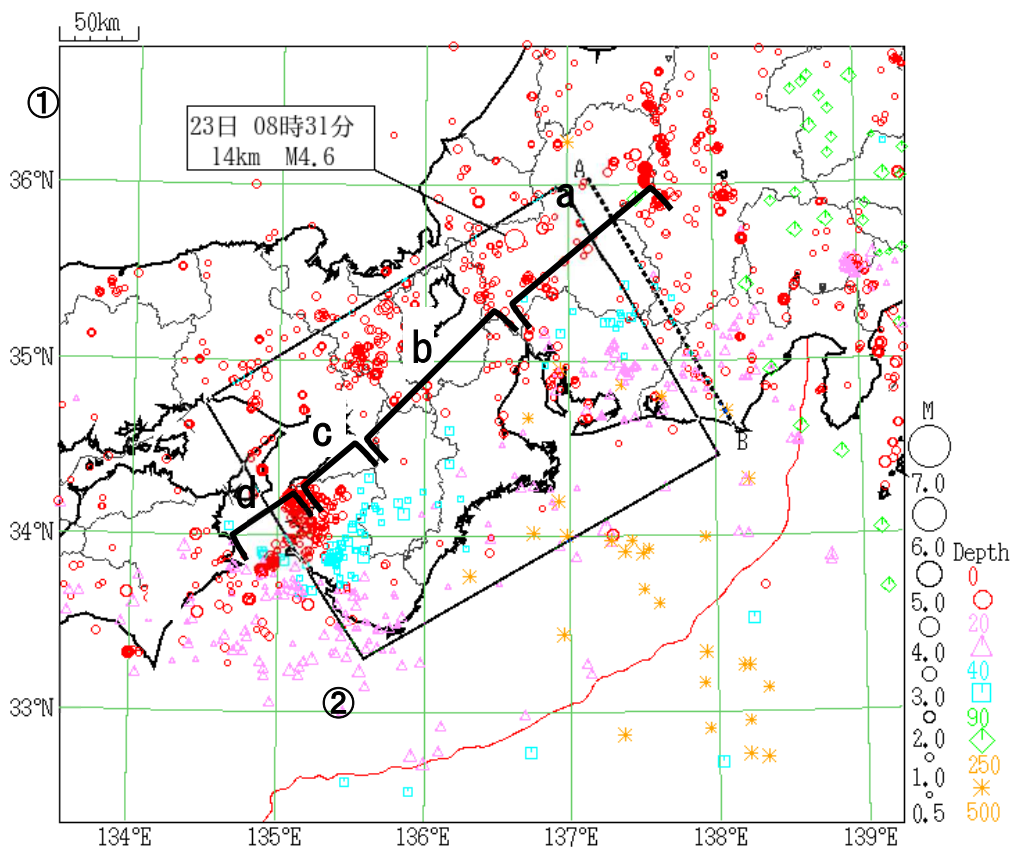


図1. 3月の主な地震活動

図中のa、b、c、dの黒枠で示す領域で、深部低周波地震を観測しました。  
(詳しくは、後述の【深部低周波地震の観測状況】を参照下さい。)

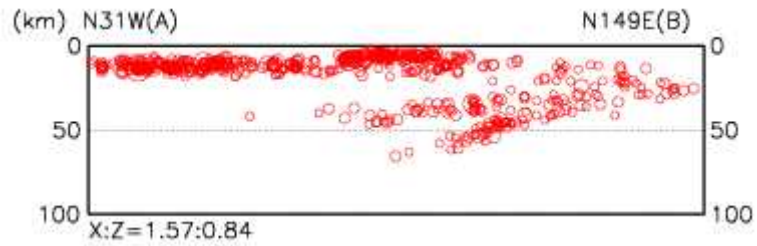


図2. 震央分布図の矩形内の断面図

図中の測線 (A-B) を鉛直スクリーンに投影してプロットしたもの

**【県内で震度1以上を観測した地震】**

(\*印のついている地点は地方公共団体または防災科学技術研究所の観測点)

- ① 岐阜県美濃中西部 (23日08時31分、深さ14km、M4.6) を震源とする地震により、三重県内では震度2を鈴鹿市、朝日町及び津市で、震度1を四日市市、桑名市、木曾岬町、東員町、菰野町、川越町、いなべ市、亀山市、松阪市、名張市、伊賀市、紀北町、伊勢市、玉城町で観測しました。

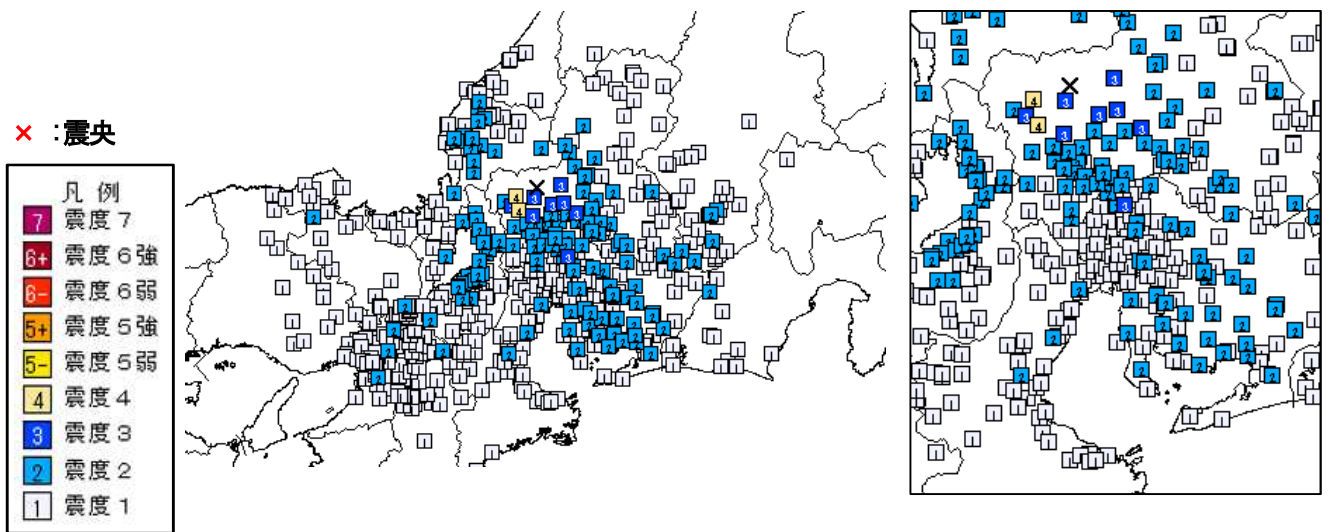


図3. ①の地震の観測点別震度分布図

【県内地震表（震度1以上）】（\*印のついている地点は地方公共団体または防災科学技術研究所の観測点）

番号	震源 日時分	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	最大震度(全国)〔三重県〕	
		各地の震度(観測点)						
①	23日08時31分	岐阜県美濃中西部 三重県	35°41.0'N	136°37.8'E	14km	M4.6	(4)	[2]
		震度 2：鈴鹿市西条 三重朝日町小向* 津市安濃町東観音寺* 震度 1：四日市市日永 四日市市新浜町* 四日市市諏訪町* 四日市市楠町北五味塚* 桑名市多度町多度* 桑名市長島町松ヶ島* 桑名市中央町* 鈴鹿市神戸* 木曾岬町西対海地* 東員町山田* 菰野町潤田* 川越町豊田一色* いなべ市員弁町笠田新田* いなべ市大安町丹生川久下* いなべ市藤原町市場* いなべ市北勢町阿下喜* 亀山市椿世町* 亀山市本丸町* 亀山市関町木崎* 津市島崎町 津市片田薬王寺町 津市西丸之内* 津市河芸町浜田* 津市芸濃町棕本* 津市美里町三郷* 津市香良洲町* 津市白山町川口* 津市一志町田尻* 津市美杉町八知* 津市久居明神町* 松阪市上川町 松阪市魚町* 松阪市曾原町* 松阪市殿町* 名張市鴻之台* 伊賀市緑ヶ丘本町 伊賀市小田町* 伊賀市下柘植* 伊賀市島ヶ原* 伊賀市四十九町* 伊賀市平田* 伊賀市馬場* 伊賀市阿保* 三重紀北町相賀* 三重紀北町東長島* 伊勢市楠部町* 伊勢市岩淵* 伊勢市二見町茶屋* 伊勢市小俣町元町* 伊勢市御園町長屋* 玉城町田丸*						

【過去1年間に三重県内で震度1以上を観測した地震の月別回数表】

2023年									2024年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	2	2	2	3	0	4	1	1	9	2	1

## 【深部低周波地震の観測状況】

領域 b (紀伊半島北部) では 9~12 日、14 日、17~18 日、24~31 日)、領域 d (紀伊半島西部) では 2 日、5~7 日、21 日に深部低周波地震を観測しました。なお、領域 a (東海) 及び領域 c (紀伊半島中部) では特段の活動はありませんでした。

※深部低周波地震はその地震波形の特徴から震源を精度良く求めることが難しく、震源が震央分布には表示されないことがあるため、実際はもっと数多く発生していると考えられます。

※図 5~図 8 では、震源の精度がやや劣る地震についても表示しています。

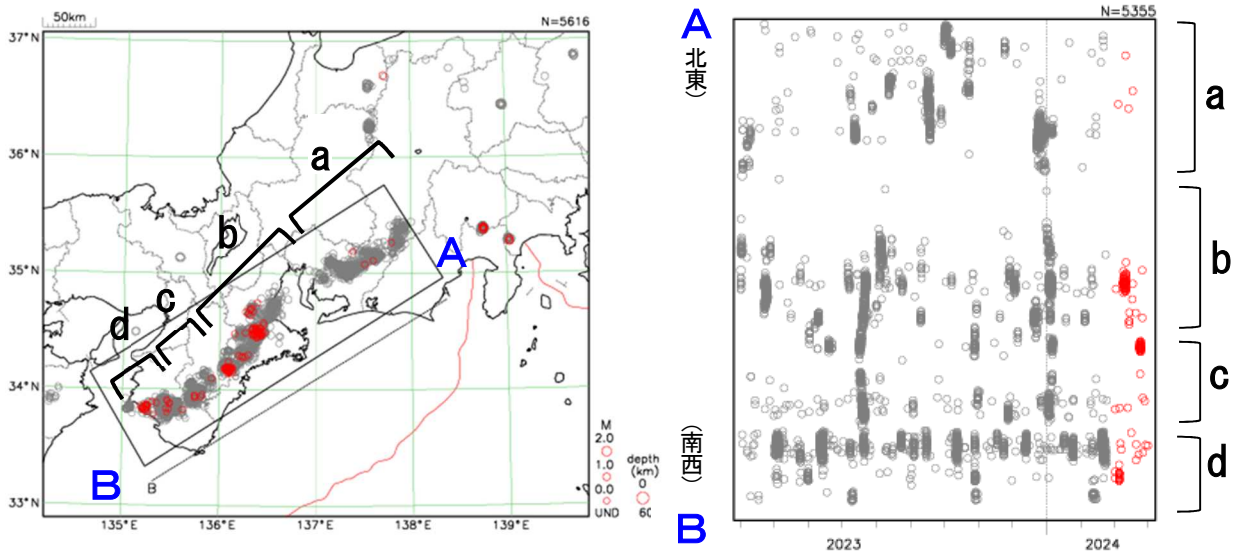


図 4. 過去 1 年間の深部低周波地震の震央分布図 (2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)  
2024 年 3 月に発生した地震を赤色で表示しています

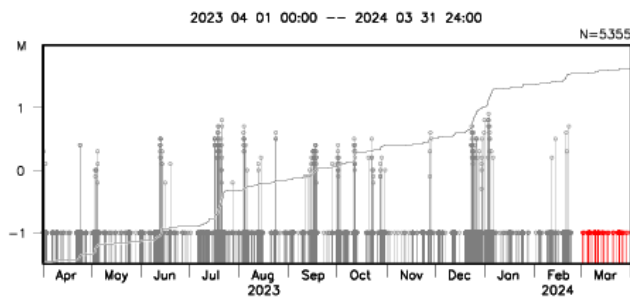


図 5. 図 4 の矩形内の M-T 図 (地震活動経過図)  
2024 年 3 月に発生した地震を赤色で表示しています。  
M が -1 以下や M が不明な地震は全て -1 としています。

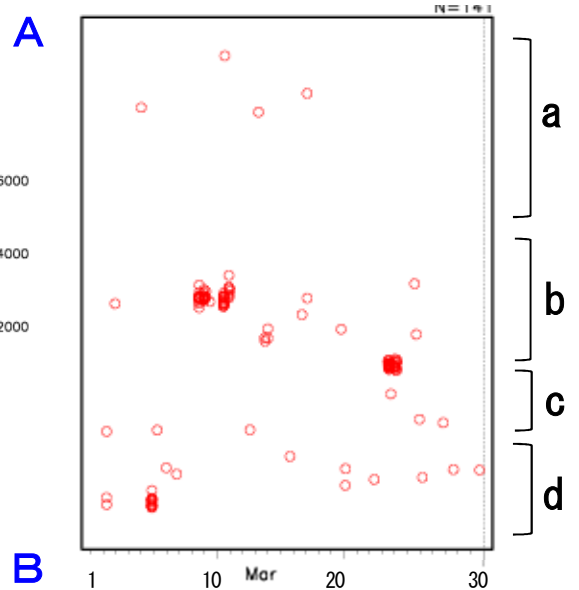


図 6 (上) 過去 1 年間に発生した深部低周波地震の時空間分布図  
縦軸：図 5 中の A-B を投影 (概ね北東-南西方向)  
横軸：期間 (2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)

図 6 (下) 図 7 の今期間部分 (2024 年 3 月 1 日~3 月 31 日)

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点 (よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

・資料についての問い合わせ先 津地方気象台 電話：059-228-6818

・この地震活動図は津地方気象台ホームページ「三重県の気象・地震活動・気象速報など」に過去3ヶ月分掲載されています。

アドレス：<https://www.data.jma.go.jp/tsu/overview/overview.html>



## 昭和東南海地震から 80 年

南海トラフ沿いではプレートの沈み込みによって、常にひずみが蓄積されていて、概ね 100～150 年の間隔で大地震や津波災害が繰り返し発生していることが古文書等の記録からわかっています。

過去、昭和東南海地震（1944 年）と昭和南海地震（1946 年）が発生しています。特に東南海地震では三重県内では震度 6 相当の強い揺れがあったとされ、その約 10 分後には三重県南部の沿岸では 6～9メートルの津波が襲来しました。

多大な被害が発生した昭和東南海地震から 80 年以上が経過しました。今後、当気象台では特設サイトを解説する予定です。



旧桑名市外における揖斐川堤防決壊の写真

出典：東南海大地震調査概報（中央気象台）